

樹皮・ダストを粉砕ブレンドした 畜産用敷料製造事業

人吉木材工業団地内では、原木から自然剥離した樹皮やカッターバーカーで剥いた樹皮が土場に大量に堆積し、ストックヤードを占拠しています。冬場には自然発酵し、熱を帯び、火災の心配もあり、早急な処分の必要に迫られていました。

事業取り組みの経緯

拡大経営を続けている地域の畜産業界や牧場などから樹皮を粉砕して、家畜用の敷料に活用したいとの要望がありました。樹皮とダストと呼ばれる粒が粗いおがくずを粉砕しブレンドした敷料を試験的に加工生産し、サンプルを提供して畜舎で使用していただいた結果、十分に敷料として活用できるとの回答を得ることが出来たため、敷料製造のための設備導入を目指しました。



木材ダストを粉砕機に定量供給する木材ダスト槽

実施内容

当組合は現在、原木市場をはじめ製材所やチップ工場、のこの目立て業者、運送業の5社で構成されています。昭和59年に同地に進出以来、樹皮の処分が課題となっていました。平成28年度ものづくり補助事業を活用して敷料粉砕機械を導入し、近年品薄傾向にある畜産用おがくず敷料に代わって、樹皮・ダストを粒状に粉砕ブレンドし、バーク敷料として、低コストで製造し、畜産業界大手販売先へ安定供給を目指しました。

事業取り組みの成果

樹皮などは、水分が乾燥した状態でのトン数で月間約250トン进行处理しています。補助金を活用して敷料粉砕機械を設置するまでは、約50トンしか処理できなかったため、月間5倍の成果を得ることが出来ました。しかし、平成30年夏に球磨地域の敷料単価が大幅ダウンしてし



補助金活用のポイント！

八代港からは生の原木が東南アジア（中国を筆頭に韓国・台湾等）を中心に海外に輸出されています。原木そのものも加工して付加価値を付けて輸出することが出来れば、新たな木材需要・雇用の創出にもつながると考えています。



まい、当初契約していたトン当たりの単価が、ほぼ半額にまで下落したことは痛手となりました。

求める事業パートナー及び支援策

現状、製材所数は年々少なくなりつつありますが、一方で敷料需要はさらに増加するものと考えられます。



原木ストックの奥に大量に堆積した樹皮

そのため球磨川流域林業事業協同組合（熊本県相良村）との横の連携も強化推進中です。人吉球磨地域全体での林業の活性化を目指しています。

熊本県の林業や木材産業の振興のため、かつての「緑の産業再生プロジェクト促進事業」のような民間事業所を主にした補助金の復活を要望しています。

熊本県は熊本市と五木村に「くまもと林業大学校」を開設し、人吉球磨地域に、全国から木や山を愛する人たちが集まり、林業を学んでいます。女性の進出もあります。以前より林業分野に熱気を感じています。

休日の外出時は、げたを愛用しています。
原木の有効活用や製品化など、
日常生活の中でも原木を
どう活用できるか考えています。

COMPANY PROFILE

協同組合 人吉木材工業団地

代表者名	代表理事 谷川 龍男
設立年月	1984年4月14日
所在地	〒868-0095 熊本県球磨郡相良村大字柳瀬 3452-3
TEL	0966-24-7865
FAX	0966-22-7606
URL	なし
資本金額	2089万円
従業員数	7人
業種	木製品製造業



代表理事
谷川 龍男さん

送りローラーで樹皮を粉砕機に投入する装置
樹皮をミラーで確認しながら、定量で確実に樹皮槽に投入する